

● 広島県の国際化推進における CIR の活躍 —— 広島県地域政策局国際課

広島県の国際化推進の取り組み

広島県では2020年10月に「安心 ▷ 誇り ▷ 挑戦 ひろしまビジョン」を策定し、「将来にわたって、『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現」を基本理念に、「県民一人一人が『安心』の土台と『誇り』により、夢や希望に『挑戦』しています」を目指す姿として掲げています。

また、このビジョンの地域共生社会の領域では、10年後の姿の1つとして、外国人が地域社会の一員として、地域とつながりを深めながら、生活に必要な情報の共有が進むことにより、外国人が困った時に相談できるなど、孤立することなく安心して生活している多文化共生社会を目指しており、これらの取り組みには、日本とは異なる国、文化圏から参加をしている CIR の活躍は欠かせないものになっています。

3名の CIR

広島県地域政策局国際課には、3名の CIR が所属をしています。それぞれの出身地、言語、特技から県の国際交流事業を中心にさまざまな事業を担っています。

まず、今年夏に4年目を迎えた、メキシコ出身の口

ドリゲス・ホルヘさん。広島県は同国グアナファト州と2014年に友好提携を締結しており、メキシコとの国際交流を中心に大活躍をしています。2019年に友好提携5周年を記念したグアナファト州訪問時には、同行し、広島県知事とグアナファト州知事の通訳などの業務を行いました。メキシコやグアナファト州をもっと広島の人々に知ってもらうため、県内の学校や公民館に出向いて行く、メキシコ文化理解講座も担当しています。ホルヘさんは、音楽の専門家でもあることから、授業ではメキシコ音楽を披露し、実際にメキシコに行ったかのような気分を子どもたちに味わってもらっています。

広島に総領事館がある韓国からは、ホ・ソヒさんを迎え、韓国との交流を始めとした事業を担当しています。

広島県にとって大事な仕事である、在韓被爆者の方とのやりとりを翻訳する機会も多くあります。県内の市町から国際交流事業の助っ人として呼ばれることも多く、料理教室、韓国語講座の講師としても活躍しています。ソヒさんの学校訪問授業では、韓国の食文化、学校生活、伝統遊び体験からポップカルチャーまで、学校の要望や児童生徒の好みに合わせ、授業を組み立てており、参加者は楽しく生の韓国を学んでいます。



学校訪問授業



国際交流イベント



オンライン料理教室



児童生徒にオンライン授業

また、米国カリフォルニア州からもゴトウ・ハーシグ・アヤさんを迎えています。英語が母語ということもあり、県庁内の多くの部署からの翻訳依頼をこなしているほか、在日大使や、総領事の県知事表敬訪問の際には通訳を行っています。また、週2回は（公財）ひろしま国際センターで勤務し、センターでの国際交流イベントの講師、留学生支援や外国人相談窓口における通訳業務を担当し、県内の外国人の方々からの悩みに対応をしています。

学校訪問の依頼が入ることも多く、アヤさんの明るい性格で、児童生徒との楽しい授業を続けています。また、PAとして、県内ALTの相談役も担ってくれています。

今年はコロナ禍で例年通りの対面の研修やオリエンテーションができませんでしたが、オンラインに切り替え、来日をしたALTが広島での生活や業務をスムーズに行えるよう多大なサポートをしてくれています。

県民に対する発信

このほかにも、3名に共通する活躍の場として、県職員に対する語学指導があります。希望する職員に昼食時



留学生支援イベント

間を利用した外国語指導が長く続けられています。また、CIRとしての発信にも尽力しており、CIRによるFacebookでは、CIRの視点から広島の魅力や、外国人から見た広島について発信を続けています。

また、このコロナ禍で対面での国際交流ができない中、CIR自ら提案をしてくれたのが、オンラインによる文化紹介です。ビデオ会議システムを使用し、生配信で文化紹介や母国での生活について語るなど、コロナ禍の今できる発信を続けています。

これから期待すること

3人のCIRは母国を離れて生活し働くことの楽しさや難しさを経験しています。これからも、多様な文化を受け入れる多文化共生社会の実現に向け、この経験を活かして日本とは異なる文化を広島の人たちに伝え続けていってほしいと考えています。



CIRによるオンライン配信